

「佐賀大付属病院Aiセンター」の取り組み

佐賀大医学部付属病院 放射線部・Aiセンター 阿部一之

本院では病理学、法医学教室を含む院内各部署のスタッフでAi運用体制について議論を重ね、病院病理部の1室を改修、新規にAi専用X線CT装置を設置して、CTによる画像診断を行うAiセンターを2010年4月1日より稼働しました。

佐賀大医学部付属病院ホームページで「Aiセンター」を紹介しています。

ご遺体を医学的に診断させていただくのが「死亡時医学検索」で、その方法には、「Ai（エーアイ）」と「解剖」があります。Aiとは、ご遺体の死因究明のため、Ai用CTで撮像して画像診断で死因を検索することです。解剖の前にAiが適用される場合には、必要な部位をあらかじめ絞り込むことができるため、正確かつ迅速な死因究明につながります。Aiは地域医療において、死因究明のための中核的役割を果たすことができるだけでなく、犯罪捜査への協力、病理学、法医学的研究への応用、並びに、病理学・解剖学教育にも貢献できます。

院内のみならず、地域の医療機関

や警察からも依頼があれば対応することとして、検査料金を設定しました。Aiの検査料金について、1) CT撮像のみの場合、2) CT画像の読影のみの場合、3) CT撮像と読影の場合に大別して料金体系を定めました。

Aiセンター開設後、心肺停止状態で救急搬送され（CPAOA）、死亡後に死因究明のためCTが行われた例が大部分で、脳出血などの所見を有する症例を経験しました。また、解剖学的研究を目的とした検査も実施しております。

佐賀大付属病院Aiセンターの当面の課題としては、小児虐待への対応、Ai症例のデータベース化、第三者機関（Ai情報センター）との連携、地域医療連携の推進、法医解剖への支援、医学教育への支援、医療従事者らへの教育・研修体制の整備が挙げられます。

Aiは、ご遺族と医療従事者との間で死因究明にかかる情報を共有することができる有用なツールになります。さらに解剖学的研究への協力も経験し、教育・研究に活用できる

ことが明らかとなりました。

病院内にAi専用CT装置を備えた「Aiセンター」は全国的にもまだ少数ですが、解剖とは異なり、ご遺体を傷つけずに診断に必要な医学情報を取り出すことができ、「死亡時医学情報」を蓄積する観点からも、他の方法では得がたい貢献が大いに期待されています。

ご遺族への検査前の説明でも検査料金を納得され、検査後に感謝の言葉もいただきました。今後とも、Ai症例検討会で死亡時画像診断の総合的評価を重ねながら、地域医療に貢献するとともに、医学・医療の発展と医療の安全と質の向上に寄与すべくAiセンターを運用するのが責務と考えています。

Abe Kazuyuki



- 1951年 生まれ
- 1974年 九州大医療技術短期大学部卒業
- 1988年 中央大法学部通信教育課程卒業
- 2009年 国立大学法人佐賀大大学院医学系研究科 医科学専攻修士課程修了
- 2009年 国立大学法人佐賀大大学院医学系研究科 博士課程在学中
- 1974年 社会保険小倉記念病院
- 1981年 佐賀医科大医学部付属病院
- 1988年 佐賀医科大医学部付属病院診療放射線技師長
(現在に至る)
- 1994年 国立大学法人佐賀大医学部付属病院に改組

現在、Ai（Autopsy imaging）学会理事

歴任
日本医用画像管理学会 会長
社団法人日本放射線技師会 副会長
社団法人日本放射線技師会Ai活用検討委員会 委員長
九州地域放射線技師会 会長

【参考文献】 1. 阿部一之：医学・医療の発展に貢献する「佐賀大学附属病院Aiセンター」のめざすもの
映像情報Medical 2011 Vol.43 No.4 :318-322